

# 一般教育等

---

## General Education

### 一般教育等 開講ゼミナール一覧

赤塚 広隆	142	杉山 成	145
石崎 香理	143	沼田 ゆかり	146
久保田 顕二	144		

# 教員名 赤塚 広隆

---

## 1. 研究主題

整数論の初歩を学習します。また、整数論の応用の一つである暗号について学習します。その他のテーマについても、数学に関連していれば前向きに検討します。

## 2. 指導要領

研究主題に沿ったテキストを輪読し、知識の習得を目指します。割り当てられた部分をセミナー形式で報告してもらいます。その際、質疑応答のための時間を十分に取し、議論の仕方を身につけることを目指します。また、理解したことや考えたことを自分の言葉でまとめてもらい、論理的な文章の書き方を身につけることを目指します。

## 3. 指導テキスト及び参考書

学生の興味やレベルなどに応じてテキストを選ぶことにしますが、テキストの候補として、

1. シルヴァーマン (鈴木訳), 初めての数論 (原著第3版), 丸善出版, 2014年
  2. 楫, 工科系のための初等整数論 公開鍵暗号をめざして, 培風館, 2000年
- を挙げます。1の原著など、英語のテキストを読みたいという希望も歓迎します。

## 4. 選考の方法 (面接・テスト等)

テキストの一部分のコピーをお渡しするので、30分から45分程度、ホワイトボードで説明していただきます。発表中に質問をしますので、それに回答していただきます。説明や質疑応答の様子、数学に対する意欲などを見て選考を行います。

## 5. 面接・テスト等の日時・場所

11月10日(木)、11月11日(金)、11月14日(月)のいずれかの日に、292ゼミ室で上記内容の面接を行う予定です。また、口頭試験に必要なテキストのコピー等は11月4日(金)に配布します。詳細は第1志望者の人数を見て掲示にて通知します。第1志望ゼミ申込期間後の掲示物に注意してください。

## 6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

どの学問分野を修める際にも言えることですが、新しい知見を身につけたり、新しいことを発見するためにはある程度の忍耐が必要です。分からないことを理解するためには努力を惜しまない、という方に履修して欲しいと思います。

本ゼミに配属されると、ゼミでは発表をしてもらいます。その際、当方は相当数の質問をします。特に、「何故そうなるのか」ということを頻りに質問します。思考の過程を言語化する努力により、数学力、さらには社会で生きる力がつくと考えているからです。教員との問答を楽しめる方は本ゼミに向いていると思いますが、発表中にあれこれ質問されることを嫌う方は本ゼミをお勧めしません。

## 7. オープンゼミの日時・場所 (予定)

オープンゼミは行わない予定です。質問がありましたら、[akatsuka@res.otaru-uc.ac.jp](mailto:akatsuka@res.otaru-uc.ac.jp)まで連絡してください。必要があれば、メールでの調整の後、面談にも応じます。研究指導は長期間にわたる科目ですので、小さな疑問であっても解消してから選考を受けることを強くお勧めします。

# 教員名 石崎 香理

---

## 1. 研究主題

健康などに関わることで、特に、運動と健康についての関連性などを研究主題とする。

## 2. 指導要領

「健康」について検討し、学生の興味のある事象などを取り上げて、調査したり可能な限り実験棟を行って、最終的に卒論としてまとめる。

## 3. 指導テキスト及び参考書

必要に応じて、プリントを配布する。また、参考図書は随時、お知らせする。

## 4. 選考の方法（面接・テスト等）

志望理由書の提出と面接にて選考を行う。

## 5. 面接・テスト等の日時・場所

募集人数に応じて、掲示にてお知らせします

## 6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

共通科目「生活と健康」・専門共通科目「人間科学論」を修得済みまたは履修していることが、募集の前提条件とする。

# 教員名 久保田 顕二

## 1. 研究主題

近現代の哲学ならびに倫理学の研究

## 2. 指導要領

当該分野に関連する基本的なテキストを輪読し、その内容を正確に読みとる訓練をする（邦訳を使う場合でも、近代以降の文献の場合はできるだけ原文との照合を行う）。具体的な進め方としては、あらかじめ決められた報告者が、指定された範囲の内容をまとめたレジュメを作成し、さらに当日の授業で、レジュメの記載事項に口頭での説明を加える、というやり方になる。参加者同士が意見交換をする時間も十分にとり、そして互いの意見を戦わせることによって、テキストの理解を深めるとともに、自らの頭で論理を組み立てる訓練もする。

## 3. 指導テキスト及び参考書

デカルト、J.S. ミル、ニーチェ、ウィトゲンシュタイン、といった哲学者・倫理学者の手になる基本的文献や、生命倫理の分野で最近発表された論文などを取り上げる予定。また、哲学的思考の訓練にとって格好の材料であるプラトンの対話篇なども扱う可能性がある。しかし、最終的に何を読むかは、担当者の専門と履修者の希望とを突き合わせて決めることになる（担当教員の専門は、哲学・倫理学の中のある限られた領域なので、懇切な指導が可能な範囲もそれらの分野全体に及ぶわけではない）。

## 4. 選考の方法（面接・テスト等）

まず英語のテストを行い、その上で、その合格者に対して面接を行う。テストは、半ページ弱の分量の、それほど難易度の高くない哲学的文章を翻訳し、かつ、その内容を200字～300字程度で要約する、という体裁のもの。英和辞典（紙のもの）のみの持込を許可する。また、申し出があれば、独語または仏語を選択することも可能（その場合は独和辞典または仏和辞典の持込）。

## 5. 面接・テスト等の日時・場所

テスト： 11月9日（水）16:10～17:10（3号館405久保田ゼミ室にて実施）

- ・ 独語または仏語での受験を希望する場合は、その旨を事前に連絡のこと（11月7日（月）までに、343研究室ドアのボックスにメモを投函するか、または教員宛にメールを送信する）。
- ・ 翌日（11月10日（木））、343研究室ドアの掲示により合格者を発表（学籍番号を掲示し、併せて面接を受ける順番を伝達）。

面接： 11月16日（水）16:10～（3号館405久保田ゼミ室にて実施、一人につき20分～30分程度）

※ 日程や実施場所に変更がある場合は、教務関連の掲示にて連絡します。

## 6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

「哲学」や「倫理学」の研究というと、とかく、ただ好きなことを好きなように考えていけば、何とかやっていけるものだ、という見方をされがちである。しかし実際には、これらの学問の研究には基礎的な学力が必要だし、語学の学習等、技能的な訓練も欠かすことができない。語学の学習が欠かせないのは、これらの学問がヨーロッパ発祥の、きわめてヨーロッパ色の強い学問であって、その思考方式そのものに、欧米の言語の論理構造が色濃く反映しているためである。そのようなわけで、気楽な気持ちではやっていけないということだけは、くれぐれも肝に銘じていただきたい。

## 7. オープンゼミの日時・場所（予定） ※夜間主コースは記載不要

オープンゼミは行わない。

# 教員名 杉山 成

---

## 1. 研究主題

「自分・仕事・社会の幸福な関係について考える」

近年、アルフレッド・アドラーの心理学に注目が集まっています。皆さんのなかにもベストセラーとなった『嫌われる勇気』を読んだ方も多いと思います。彼の心理学は個人心理学とよばれ、「人間が人間らしく生きるための方法を教える心理学」といわれています。

本ゼミナールでは、この個人心理学の理論を学び、それに基づいた実践を行っていくことによって、自分、仕事、そして社会の間の幸福な関係について一緒に考えてみたいと思います。

## 2. 指導要領

個人心理学の理論的枠組みについての学習、そしてそれに基づいた実践をゼミの両輪として進めていきます。

理論面では、個人心理学についての各種テキストを輪読し、個人心理学に基づいたパーソナルワークおよびグループワークを行います。

実践面においては、ピアサポート活動（大学での居場所づくりや障がいのある学生への支援）・心理学ワークショップの開催を計画しています。また、そのために必要な対人援助（ピアカウンセリング）やプレゼンテーションのスキルを身につけていきます。

## 3. 指導テキスト及び参考書

岸見一郎・古賀史健 『嫌われる勇気』『幸せになる勇気』（ダイヤモンド社）  
アルフレッド・アドラー 『人生の意味の心理学（上・下）』（アルテ）他

## 4. 選考の方法（面接・テスト等）

志望動機や現在の関心事等について、10分程度の簡単な面接を行います。

## 5. 面接・テスト等の日時・場所

面接は11月11日（金）13時から403ゼミ室で行います。どうしても時間の都合がつかない場合には、事前にメールで申し出てください（宛先：sugiyama@res.otaru-uc.jp）。

## 6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

次のような諸問題に関心があれば、2年間のゼミ活動のなかで、何かしら自分なりの答えを見ることができるのではないかと考えます。なお、現時点で心理学の基礎知識は必要ありません。

- ・人間らしく生きるとはどういうことか
- ・自分を受け入れるにはどうしたらよいか
- ・仕事を通して成長していくにはどうしたらよいか
- ・社会のなかでの居場所はどのように作っていけばよいか
- ・他者との信頼関係はどのようにしたら得られるか

## 7. オープンゼミの日時・場所（予定）

オープンゼミは行いません。その代わりにゼミの計画に関する説明会を行う予定です。

# 教員名 沼田 ゆかり

---

## 1. 研究主題

- ・ バクテリアセルロース (ナタデココ) を用いた材料開発
- ・ 後志産果実由来セルロース合成菌が産生したナタデココを用いた研究

## 2. 指導要領

各自別の研究テーマを持ち、全員が異なる内容の実験を個別に行うこととなる。実験方法やデータのまとめ方など研究を行う上で必要な基礎知識・技術を指導する。実験結果について教員と個別にディスカッションを行い、研究の方向性の検討を適宜行う。1か月に1度、ゼミ内の報告会でそれぞれの研究の進捗状況を報告する。その他、週に1度、高分子関係書籍を用いて輪講を行っており、各自2～3週に1度(ゼミ生の人数によって変更あり)発表の機会がある。研究をとおして、PDCA サイクル (Plan → Do → Check → Action) を習得することを目標として指導を行う。本学で所有していない装置を用いた実験は共同研究先で行うこともある。遠方の場合、旅費を支給する。

## 3. 指導テキスト及び参考書

参考書

「理系なら知っておきたい ラボノートの書き方【改訂版】」岡崎浩司・隅藏康一著、羊土社

「ベーシックマスター生化学」大山隆監修、オーム社

「基礎からわかる機器分析」加藤正直・内山一美・鈴木秋弘著、森北出版

など

## 4. 選考の方法 (面接・テスト等)

面接により決定する。

## 5. 面接・テスト等の日時・場所

面接の日時を調整するので、連絡を取ること。

面接期間：11月7日から11月17日の内随時

面接場所：化学研究室(3号館1階)

## 6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

化学IおよびIIを履修していることが望ましいが、化学の知識は問わない。未履修の場合、2017年度に履修すること。

一生懸命に実験に取り組めることが必要である。本ゼミの実験は適切なサンプル調製条件や測定条件の検討が必要となるため、同じ条件もしくは少し条件を変えてサンプルを何度も調製、各種装置の測定手法の習得が必要となる。そのため、同じことを繰り返し行うことが苦痛な人には履修を勧めない。

時間割上の「研究指導」の時間帯だけ実験を行っても全く研究が進まないため、各自が空き時間や講義後に実験を進める必要がある。つまり、実験室の滞在時間が長くなる。そのことを良く理解したうえで希望してもらいたい。

## 7. オープンゼミの日時・場所 (予定)

日時：10月11日 14時30分～

場所：化学実験室(3号館1階) (注)化学研究室の隣です。